

When one door shuts  
another opens

捨てる神あれば

When one door shuts, another opens.





「捨てる神あれば」

作者・御座衛門





いってえ...

日々怪我が増え、  
実感する事がある



私は仲間を失い  
ただ放浪していた



傷が目立つと  
面倒だな...



私にはもう  
何も残って  
いなかったから。



私は弱くなった。

そうー

し  
た...



早くしな

だがそれは  
あまりに空っぽで



社会も、他人も  
もはやどうでも  
良かった

頭をこのカウンター  
みたいにされたく  
なければ金出しな



やりたい通りの人生。  
勝手気ままな人生。



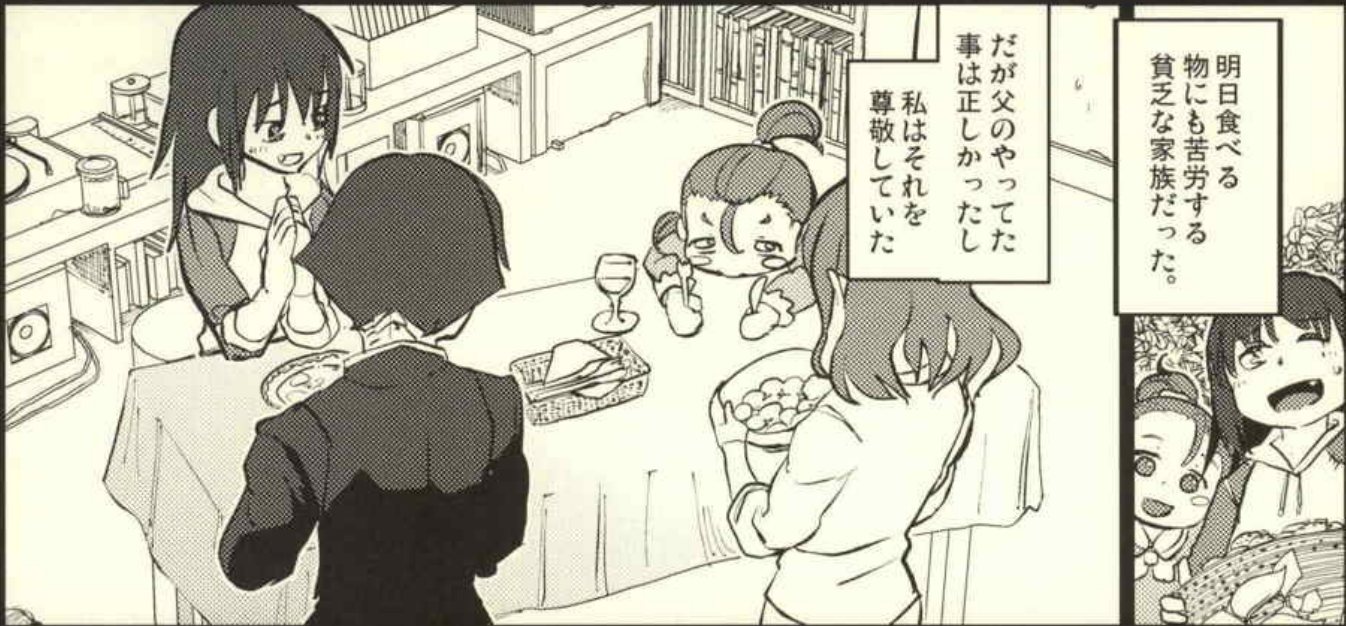
イライラしていた。



私にはかつて  
家族が居た。



この空っぽな感覚。  
覚えがあった。



明日食べる物にも苦労する貧乏な家族だった。

だが父のやってた事は正しかったし私はそれを尊敬していた



そして私は父の祈りを願った



父と娘で人々の生活を守る事がこの上ない誇りだった

魔法少女になり仲間も出来た



それからというもの、親父の信者はうなぎ上りに増えた。



私達家族は幸せだった。

そして

私の身勝手な願いは  
簡単に父を  
壊してしまった。

正気に目覚めた  
人々はこぞって  
教会を敵視した

妹に腹いっぱい  
飯を食わせて  
やりたかった  
たった数人、  
幸せにしたかった

私はただ  
父の笑顔が  
見たかっただけだ

こんなはず  
ではなかった。

教会は  
徹底的に  
壊された

壊滅

神などいなかつた。

馬鹿な話  
だよな全く

私は間違っていた。

バリーツ

私の選択が皆を殺したんだ。

かつて見滝原  
には4人の  
魔法少女がいた







優しさが  
つらかった。

1人は初めて  
仲間と呼べる  
奴だった。



あいつの足手  
まといに  
なりたくなくて  
分かれた

後輩を庇って  
死んだそうさ。



1人は  
いけ好かない  
奴だった。

真似事で  
正義を語る  
身の程知らず。

かつての  
自分みたくで  
嫌いだった。



結果

自分の正義に  
押しつぶされた。

最後の二人は  
戦って死んだ。

規格外の敵  
から人々を  
守ろうとした





結果は散々なモノだった。

仲間は全員死んだ。それでも厄災は止まらず何万人の死者が出た。

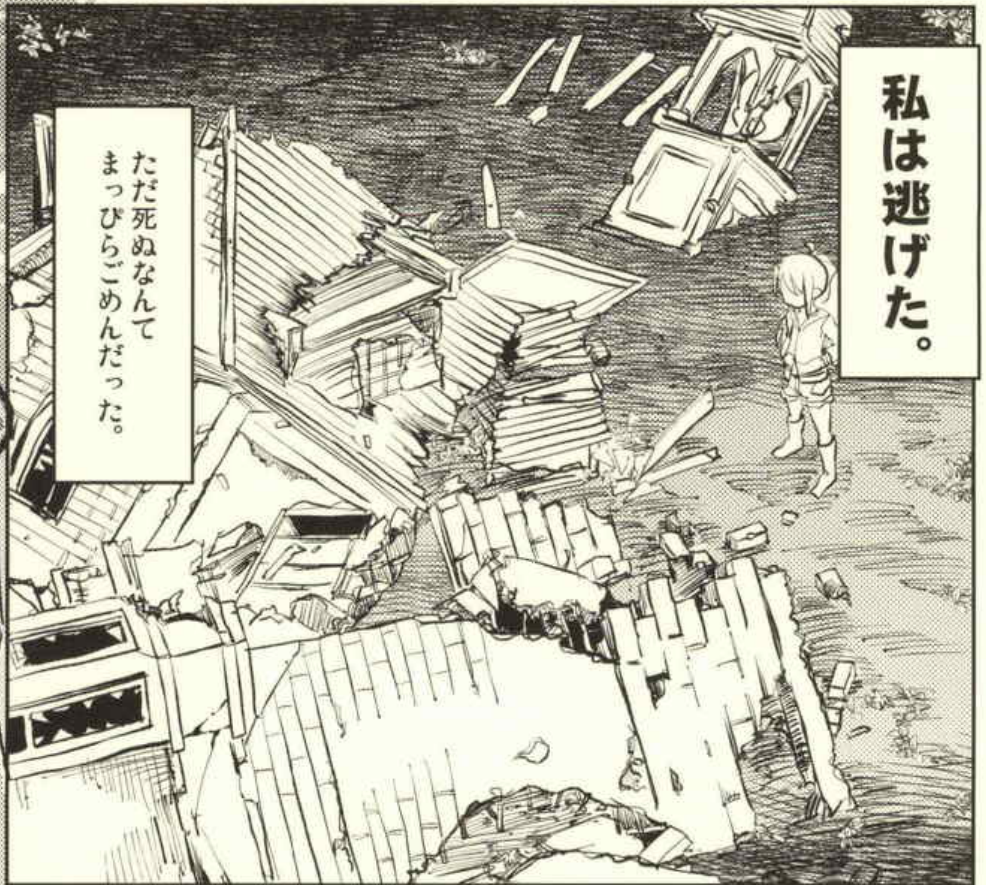


ただの無駄死にだった。

何人束になってかかっても勝てない事は明白だった。



下らねえ事で死にやがって

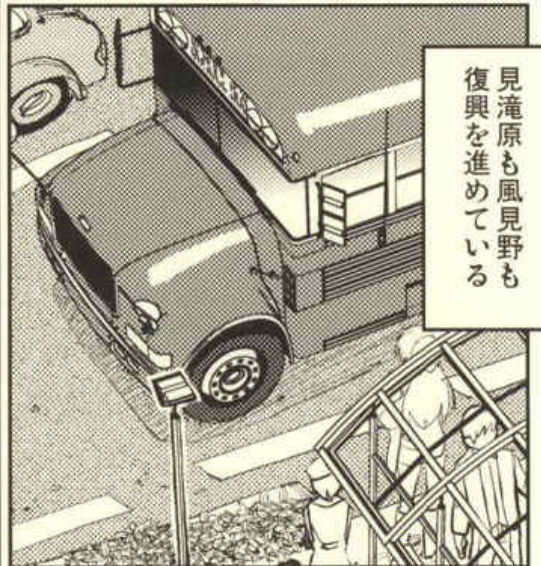


私は逃げた。

ただ死ぬなんてまっぴらごめんだった。



私の知っている  
景色は何一つ無い。  
愛着は無かった。



見滝原も風見野も  
復興を進めている



ただ見届けて  
やりたい。  
そう思った。



でも  
あいつらの  
いた街だ。



よおマミ。

久しぶり  
だな

アアア

ア



でもお陰で  
ちゃんとした墓が  
出来て良かった  
じゃねえか

せっかく立てた  
お前の墓も  
なくなっちまったな。



スッ  
お前が大事に  
してたのと  
同じものだ



天国ってのは  
居心地は  
いいの？

私は  
相変わらず  
ブラブラ  
してるよ。



それでも周りの  
皆の平和を願って戦う。

家族を失って。  
守るものを失って。



たまに思うんだ。  
お前は魔法少女に  
なっても私生活を  
守ろうとしたよな

下らねえと  
思ってたけど  
その大変さ、大切さ。  
今になってわかるよ。



私には耐え  
られなかった

その結果が  
これだ。

なあセンパイ

私はどうすれば  
良かったんだろうなあ？

貧乏だった  
けどあの頃が  
幸せだった

奔走してた  
あの頃が  
楽しかった

居場所なんて  
どこにも無い。

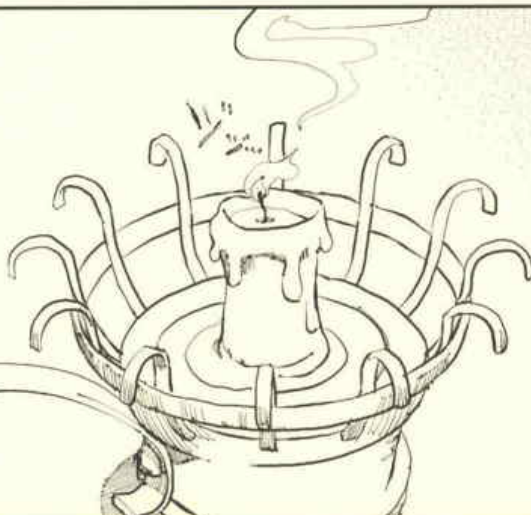
人のために  
死ねたお前達が  
羨ましかった。



もはや  
私には帰る  
場所も無い。

私には  
もうそんな  
資格も無い。

ただ、  
自堕落な日々を  
続けているだけだ



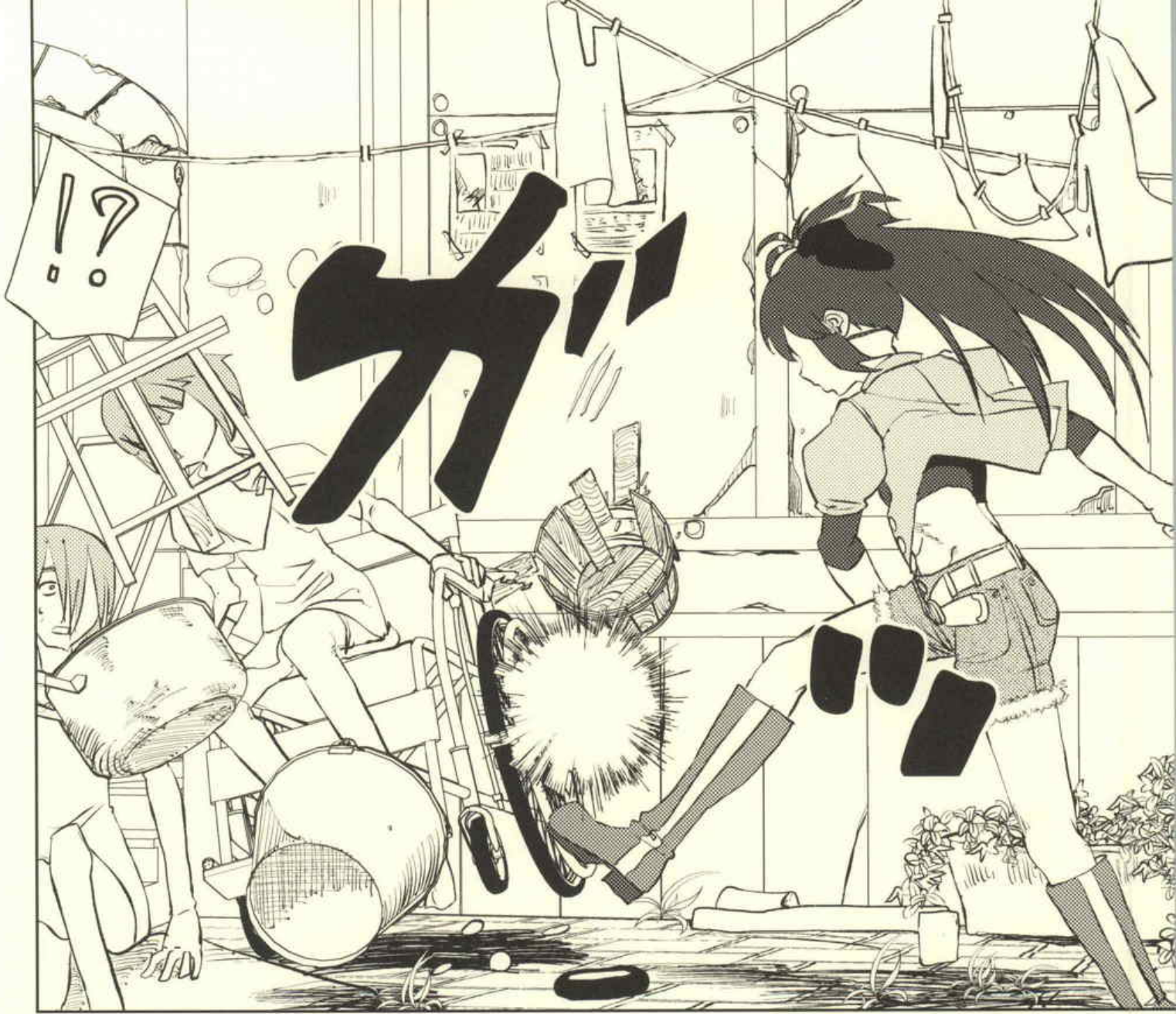


達者でな

...そろそろ行くよ。

私は今  
生きているのか？





手前らみてえな  
クズを見てると  
虫唾が走るんだよ!



ろくに兄弟も  
守れないくせに  
へらへら  
してんじゃねえ!

誰かが  
助けてくれる  
なんて思うな!



金がねえなら  
盗みでも何でも  
すればいいだろ

カウカウ



守って見せろよ！  
兄弟なんだから！

私は家族の  
ためなら  
何だって出来た



大切な奴も  
いるんだろ！  
もがいてでも  
生きて見せろよ！

恵まれてるのが  
分かねーのか！

こいつとは  
違う！！



今のうちに  
逃げなさい！



離せ！



私はこいつ  
とは違う！！

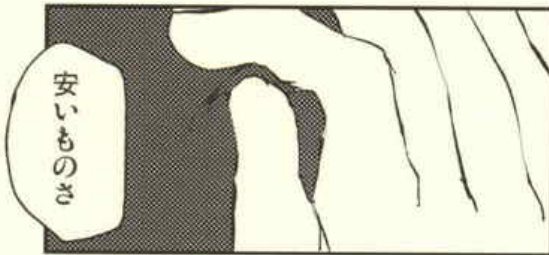
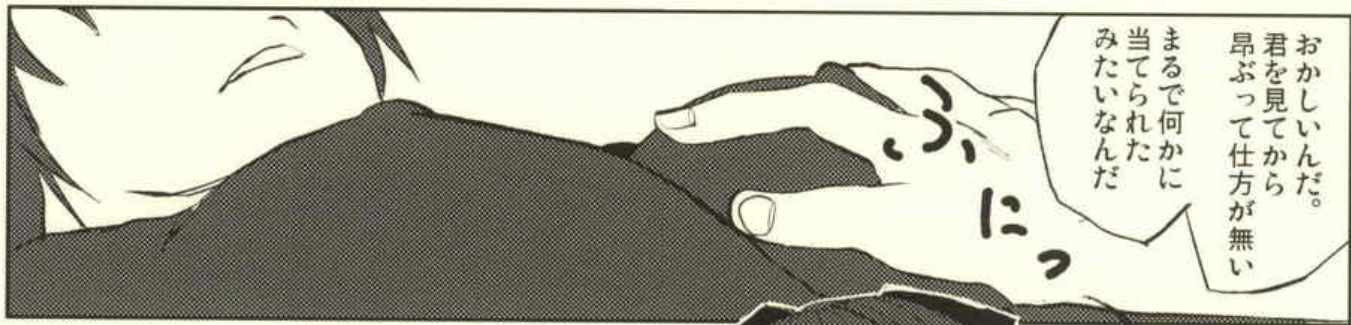
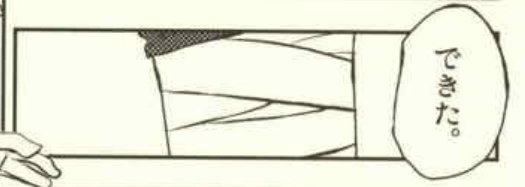


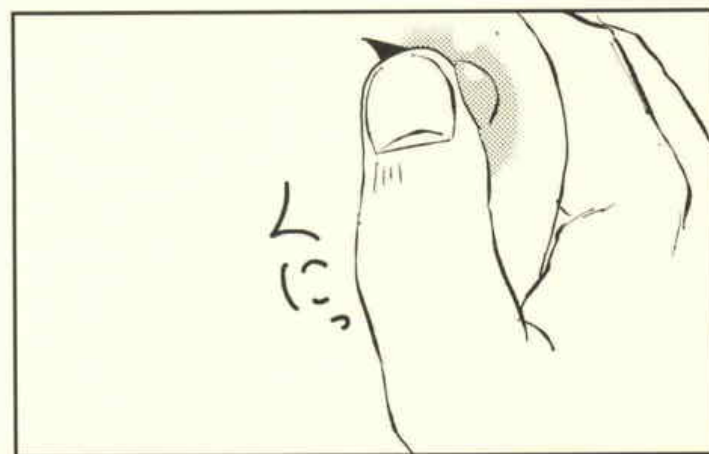
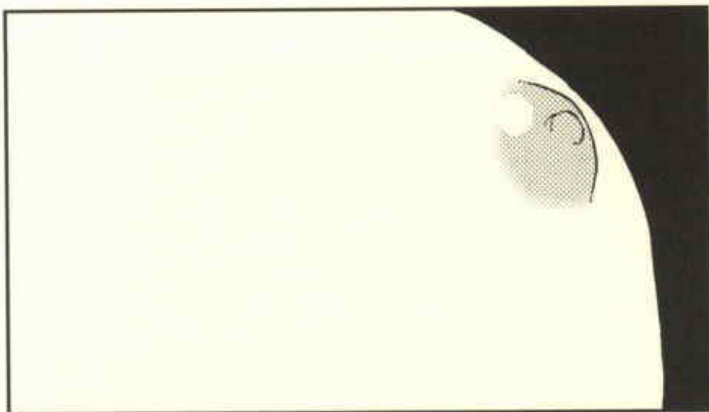
あつ？

君、怪我してる  
じゃないか









男ってのは皆胸が  
好きなのかねえ



さすがに…  
マミみたいなの  
しとやかさが  
あれば  
いいんだけどな



ろ  
ろ  
ろ  
ろ



ボロンッ

こっちも頼むよ



も  
っ  
っ  
っ



ほら早く  
啜えて!

どうすりや  
いいんだ?

まっ

あっ臭い



あんまり乱暴なのは  
好かないんだけどな

しかし好きに  
なれない臭いだ

おお伸びな

?



ガッ



こら、  
おぼれ殺す気か

ケホッ



バツ

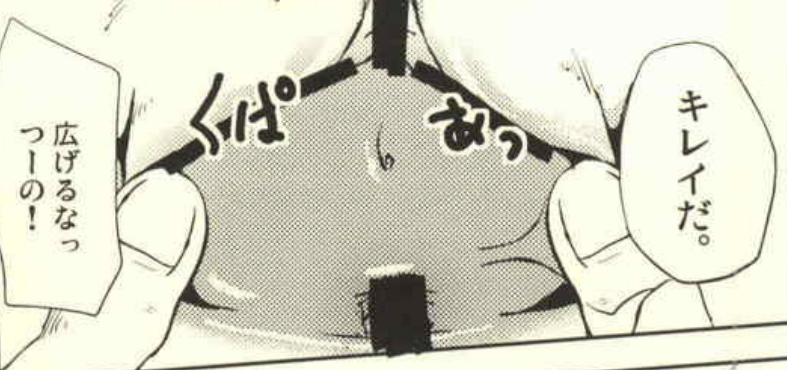


バツ



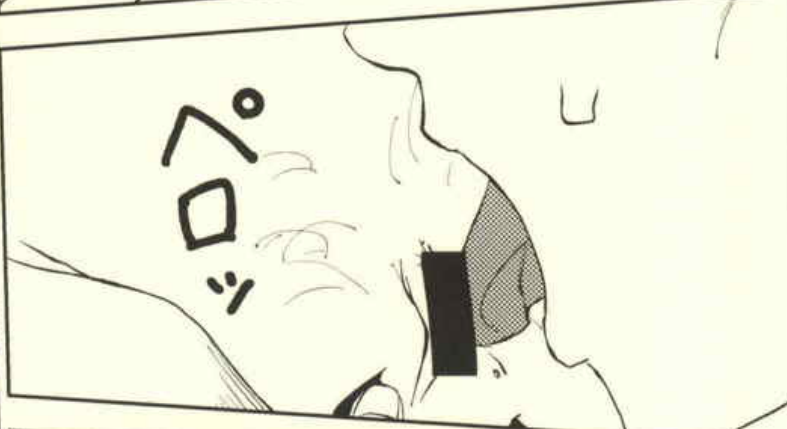
バツ





キレイだ。

広げるなっ  
っーの!



何してんだ  
お前!



でも  
濡らさない  
辛いでしょ。

余計な気  
使わなくて  
良いんだよ!

♡♡♡♡♡



ぬるる

あり? 感覚は  
切ったはずだぞ









動くなっ  
つの!

ズッ

バカ

ズッ  
ズッ



痛いだけ  
だつつのこ!!

ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ



力任せて  
乱暴な

ズッ  
ズッ

なのに



空っぽの体の  
はずなのに  
何かがこみ上げる

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ

なんで  
こんな声  
出てるんだ!?

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ



こんなの  
歪んでいる  
そんなの  
分かっている。

だが  
ここまで人に  
求められた事が  
あっただろうか

それが嬉しくて、  
体が反応する



体の芯まで  
染み込んでくる

イッてる  
中に出てるっ



去り際に男は  
ありがとうと  
いった。



久々に人に必要と  
されたのは悪い  
気分じゃなかった



枕元には約束の  
金があった。

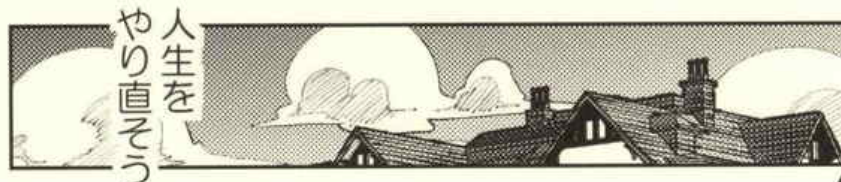


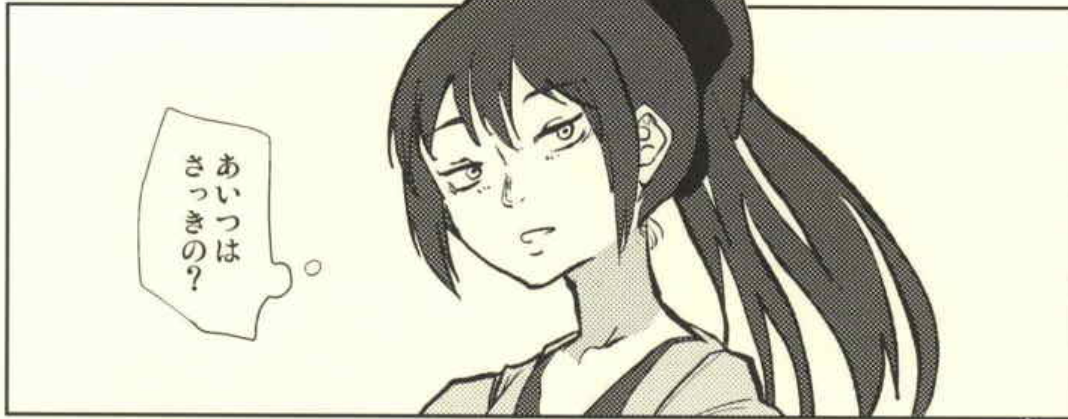
目が覚めた時  
には居なかった。



15万。  
こんだけあれば  
当分はもつ

初体験ね。思ったよりは  
大したことなかったな





あいつは  
さっきの？



何だ  
お前ら一体！  
俺は無実だ！！



はなせ！

俺は知らな  
かったんだ！

が  
が

あいつが未成年  
だったなんて！

が  
が



許すもんか  
人でなしども！

死ぬまで  
後悔しろ！

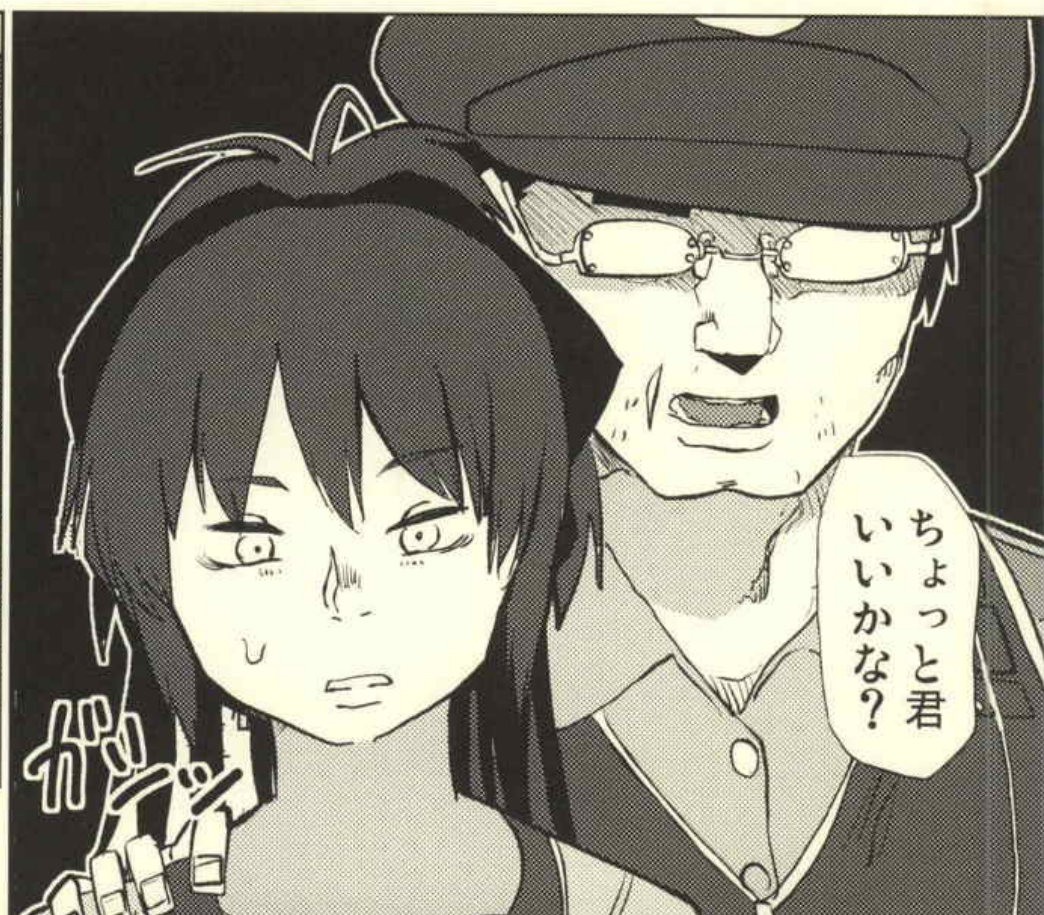
牢屋から二度と  
出て来なければ  
いいんだ！

あの時のガキ！？



離せ！！

ガ  
ガ



ちよつと君  
いいかな？

が  
が

なっ待ちなさい!

ガガッ

ピー

どういう事だ?

佐倉...?

容疑者  
逃走!

赤毛の少女で手配書の  
サクラキョウコ  
かと思われる

繰り返す!

容疑者は赤毛の少女。  
サクラキョウコ  
と特徴が合致!

あのインチキ  
牧師の娘か!

またお前か!  
お前らか!

家族そろって災いを  
振りまきやがって!

違う!  
父さんはインチキ  
なんかじゃない

お前のせいで  
俺の人生は  
めちゃくちゃだ!

あの  
悪徳宗教家の!?

この魔女め!

街から  
出て行け!

いやだ!  
聞きたくない!



薄汚い  
呪われた  
一家め。

お前らなんて  
生まれてこなければ  
良かったんだ

# どろろしてまたこうなる



どこから間違えた？

父の夢を願わなければ良かった？

あの時分かれば？



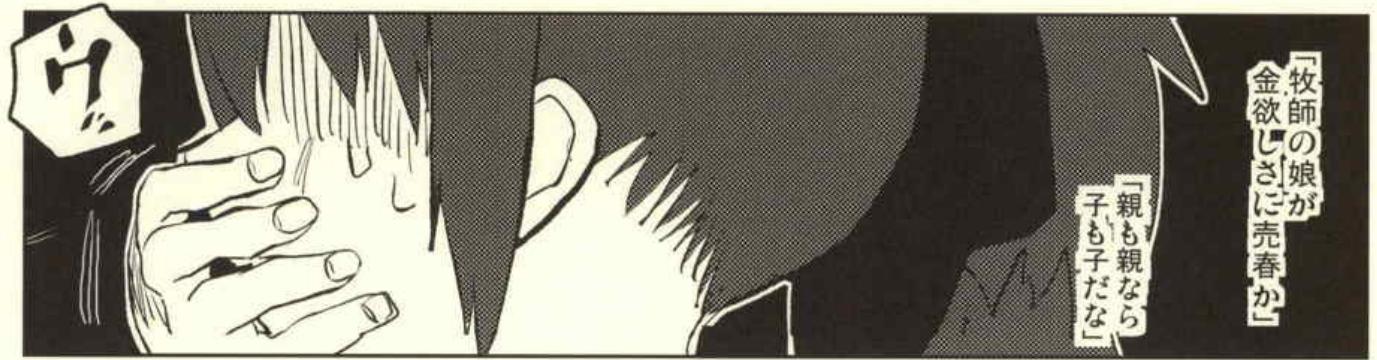
今更学校にも行けない

戸籍も無い

家も無い

満足に働く事も出来ない

いつまでこの世界をさまよいつつ続ければいい



「牧師の娘が  
金欲しさに売春か」

「親も親なら  
子も子だな」

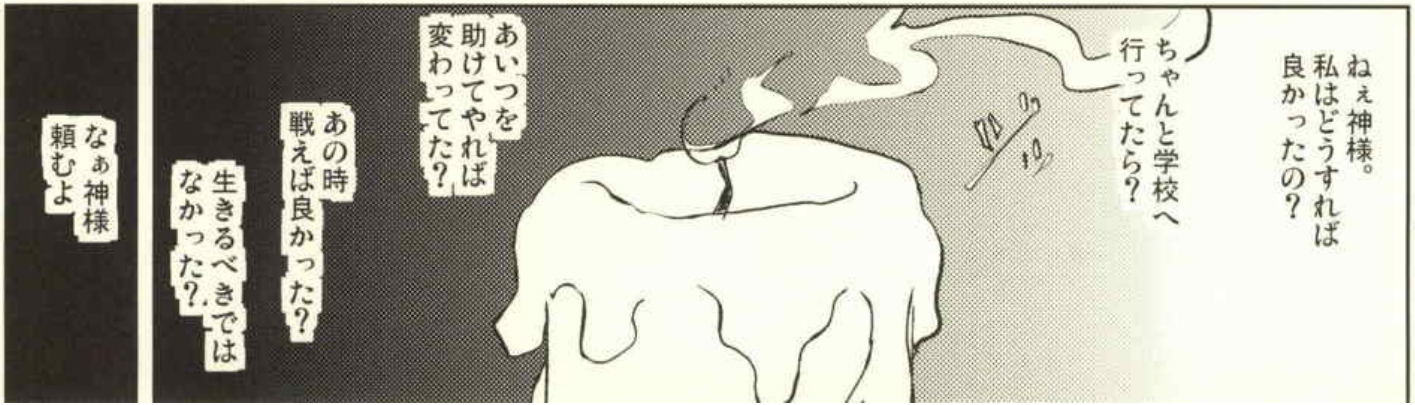
け



どうすれば  
人並みに生きられる



何て馬鹿な  
事をしたんだ



ねえ神様。  
私はどうすれば  
良かったの？

ちゃんと学校へ  
行ってたら？

あいつを  
助けてやれば  
変わってた？

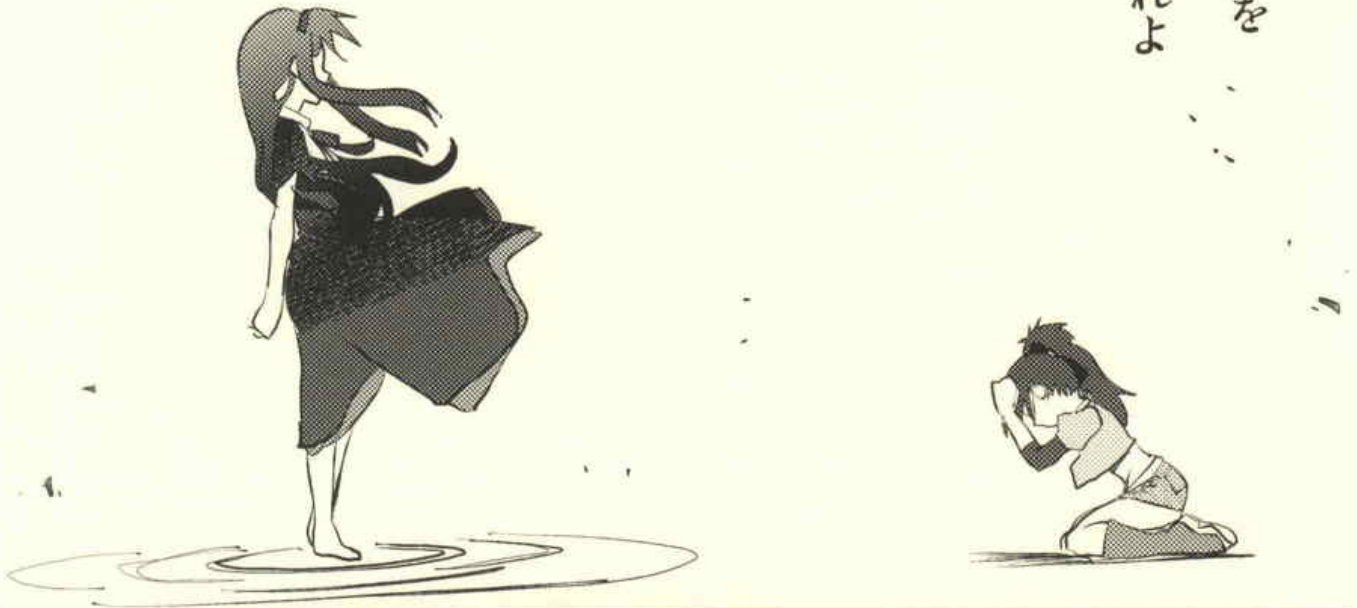
あの時  
戦えば良かった？

生きるべきでは  
なかった？

なあ神様  
頼むよ



もう一度、人生を  
やり直す  
チャンスをくれよ



大丈夫

もし神があなたを  
見捨てるならば

わたし  
悪魔が拾ってあげる



私にあなたは  
救えない。

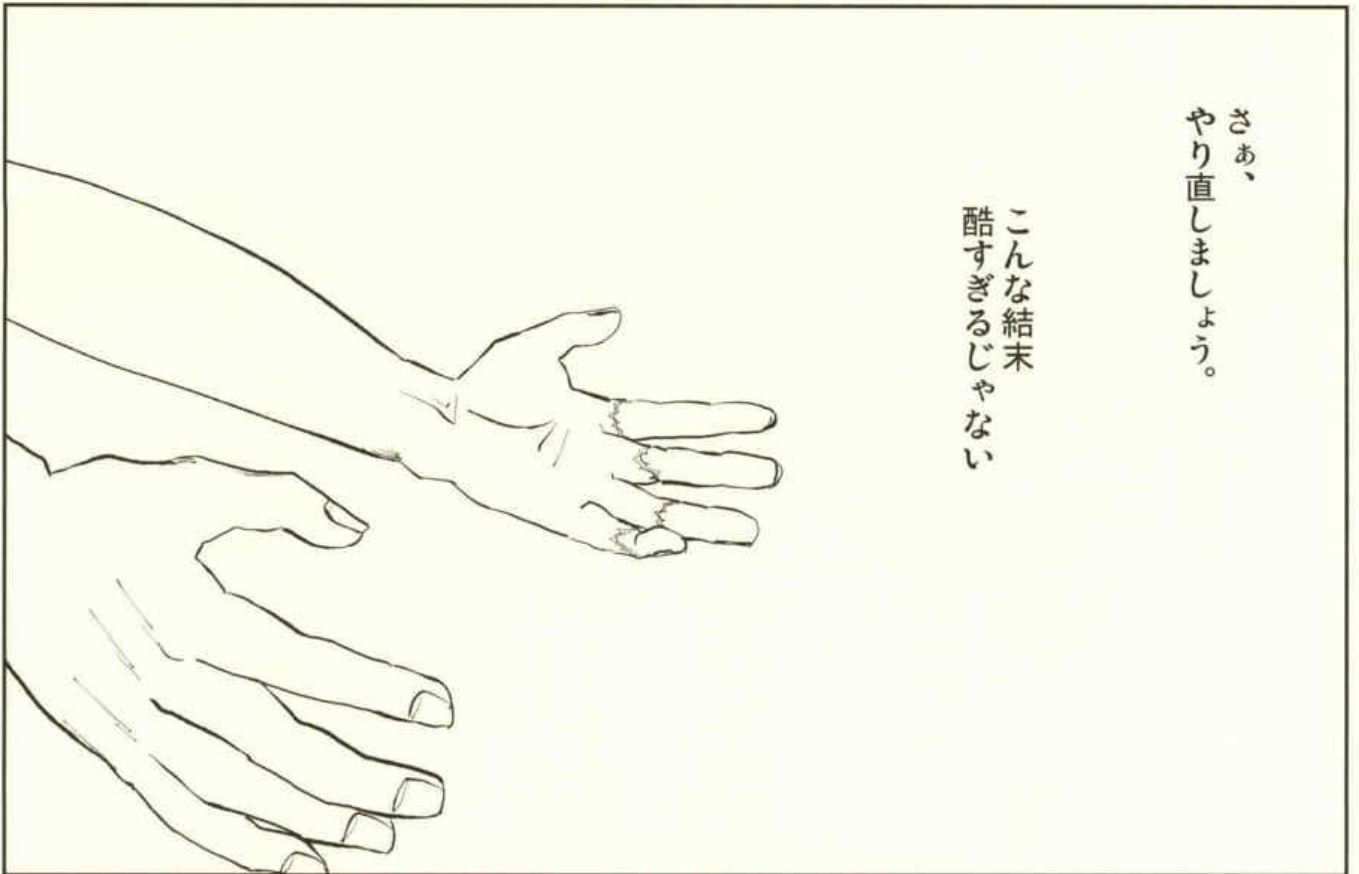


でもあなたの  
その業を全て忘れて  
しまいたいなら

私は力になって  
あげられる

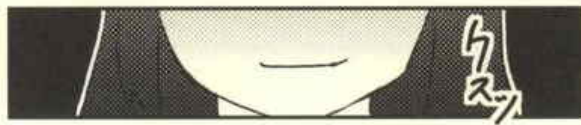
さあ、  
やり直しましょう。

こんな結末  
酷すぎるじゃない





あんたの指図は  
受けねーよ  
私の罪は  
私が背負う



忘れないで、  
私はいつでも  
あなたの味方だから



# 「私は今生きているのか？」

ワルブルギスの夜を終え、杏子は一人戦っていた。  
戦う横にはすでに誰もいない。  
苦悩し、倒錯しながらも、どうにか生きていこうともがく。

過去の消えない罪に悩まされながらも、  
必死に前を向いて生きようとする杏子は  
今度こそ逃げずに向き合いたい、そう思うのだった



ぼるしち定食  
present